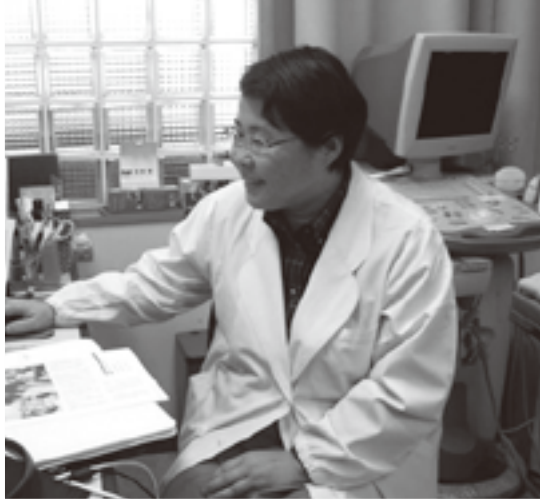


パステル



特集



大田区の「梅ちゃん先生」 ～地域で頑張る女性医師～

蒲田の町を舞台に繰り広げられている連続テレビ小説「梅ちゃん先生」。戦後の復興期に「私、医者になる！」と心に決め、みごと医師となつて地域医療に貢献する女性医師の奮闘記です。

その時期から半世紀以上、女性医師たちの現状はどうなっているのでしょうか。

数字で見えてみましょう。まず医学部入学者に占める女性の割合は既に2000年から毎年30%を超えています。医師国家試験合格者の割合でも昨年度で約33%。女性の合格者はここ数年、2500人前後で推移しています。徐々に女性医師は増加していますが、全医師数における女性割合は2010年で約19%に過ぎません。

全国的に医師不足が叫ばれる中、内閣府は、平成22年12月策定の「第3次男女共同参画基本計画」において、医療分野における女性の参画拡大を図るとしました。

医療現場での慢性的な長時間労働、夜勤や当直等の不規則な勤務形態を改善し、生活と仕事の両立が可能な環境への支援促進をうたい、女性医師が育児や介護などを理由に長期休業や離職に迫られることがないように配慮しています。

今回の特集は、男女共同参画社会の実現に向けて、女性医師の勤務環境とその課題を考えてみました。

今日も「梅ちゃん先生」さながら区内で活躍している女性医師や助産師に、その職業選択の動機や仕事へのやりがいなどを伺う中から、今も女性が医療現場で働き続けることの困難な現状が見えてきました。

CONTENTS

特集 大田区の「梅ちゃん先生」 P1～8

パステルおすすめ本 P3

「エセナおおた」のおすすめ講座 P7

女性のための「たんぼぼ相談」 P8

インフォメーション P8